

JAえちご上越

これまでの実践内容と成果

JAえちご上越では、「農を守り・育て、地域とともに未来を築こう」という基本理念の実現を目指し、従来からの地域農業の振興と、地域社会の活性化に向けて取り組んできました。

これらの取り組みは、全国のJAグループがすすめるJA自己改革の3つの基本目標「農業者の所得拡大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に対応した内容となっています。ここでは、JAえちご上越のこれまでの主な取り組みを紹介します。



1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

- 「みずほの輝き」や「つきあかり」など幅広い用途に対応した「えちご上越米」の売り切る米づくり（写真）
- 中山間地域の特性を活かした棚田米の取扱い拡大
⇒ 平成29年度販売実績 2万3千俵
- 農地中間管理事業等を活用した担い手経営体への農地集積
⇒ 認定農業者経営面積率 76.5%



- 雪下・雪室野菜のブランド化、大型機械・新技術の導入等による園芸品目の生産・販売拡大
⇒ 平成29年度販売実績 8億82百万円
- 飼料用米の作付拡大と、飼料用米で育てた豚肉・牛肉のブランド化
- 園芸生産の拡大、地産地消の推進と農業・地域の情報発信施設として「上越あるるん村」の開設（写真）



○資材価格低減策による良質で安価な肥料・農薬の供給による生産者の所得向上

（一例）

越後の輝き有機 50 元肥エコ	従来品より 約 9% 削減
越後の輝き有機 50 穂肥	従来品より 約 5% 削減
越後の輝き有機 50 スーパー元肥	従来品より 約 15% 削減
化成肥料「高度化成オール14」	従来品より 約 20% 削減

○常勤役員の担い手訪問活動による、自己改革の取組説明や意見・要望の聴取の実施（写真）



- 営農指導部門と生産資材部門の統合により、生産から販売まで途切れない組合員対応
- 農業生産拡大に向けて必要となる農業金融情報や農業資金の提供など、農業メインバンク機能の発揮

2. 地域の活性化に向けた取り組み

- 組合員・地域住民との接点の増加を図り、地域の元気づくりに向けた支店協同活動の展開（写真）
- 各支店へ「くらしの相談員」配置により、各事業の連携強化による相談機能の充実
- 食と農の理解と共感を広げる広報の展開



- 高齢者が自立した生活を営み、安心して暮らせる地域づくりのため、「認知症サポーター」「助けあい組織会員」の増員（写真）
- 「自助・互助・共助・公助」がバランスよく機能し、健康で安心して暮らせる地域社会づくりの推進



- 組合員や地域住民から信頼される「選ばれ続ける店舗」の構築
⇒ 平成 29 年度末貯金残高 3,005 億円
- JA共済あんしんチェック（加入内容説明・保障点検）を活用した保障提案の実施（写真）
⇒ 平成 29 年度実績 18,811 世帯



自己改革完遂に向けた取り組み

<農業者の所得増大に向けて>

- ・「えちご上越米」の販売対策強化に努めます。
- ・生産コストの引き下げに努めます。
- ・地産地消、6次産業化への取組みに努めます。
- ・中山間地域等の地域活性化対策に努めます。

<農業生産の拡大に向けて>

- ・水田のフル活用による農地の維持に努めます。
- ・園芸振興による生産・販売の強化に努めます。
- ・園芸・畜産におけるブランドづくりに努めます。
- ・担い手対策、出向く体制の強化に努めます。

<地域活性化に向けて>

- ・JA事業を通じた暮らしへの貢献活動に努めます。
- ・地域コミュニティの活性化に努めます。
- ・組合員とのつながり強化に努めます。
- ・広報活動の積極的展開に努めます。



